

11/15
平成3年(1991年)

広報まえばし

発行・前橋市役所 〒371 前橋市大手町二丁目12-1・電話24-1111(大代表)／編集・企画部広報課／毎月1日・15日

人口	……28万6688人	(+138)
男	……14万0530人	(+ 75)
女	……14万6158人	(+ 63)
世帯	……9万7353世帯	(+126)

—平成3年10月末日現在—

()内は前月との比較



大好き前橋
マイタケ

土の中から実りの秋

収穫の秋——。市内の小学校では、自然や農業に親しもうと趣向を凝らした体験学習を行っています。一日、ここ桃瀬小では、近くの畑を借りて四年生が親子で「イモ掘り」の実習です。子供たちは、六月に苗を植え、夏休みの間も草刈りをして大切に育てました。土の中から赤く染まつたサツマイモが出てくる度に歓声が。今日は、泥まみれになつてもお田さんにしかられません。大豊作に、みんな「ホクホク顔」でした。

メモ 市農業委員会では、昭和54年度から子供たちを対象に、農業体験学習事業を実施。今年度は、22の小学校、3つの中学校、1幼稚園に19,000本のサツマイモの苗を配布しました。

ピックアップ

詩のまち前橋を再発見…4-5

- ▷新生活運動に取り組もう…2
- ▷前橋藩主墓地に寄付金を…2
- ▷スポーツ祭を写真で紹介…3
- ▷勤労青少年のため新講座…6
- ▷“使い捨て瓶”回収します…6
- ▷第1回保育展カメララボ…7
- ▷12月の日曜祝日当番医表…7
- ▷“身スロ、優勝の篠田さん…8

手紙・情報を寄せください

広報まえばし

「広報つて楽しいね」——こんな声が聞こえてくるような紙面づくりを「広報まえばし」は目指しています。それには市民のみなさんの“声”が大変参考になります。要望や情報を寄せください。

□広報紙への要望・提言

①広報でこんなことを掲載してくれないか②市の仕事のこんなことを紹介してほしい③こうすれば広報がおもしろくなります。要望や情報を寄せください。

□定例的な欄へも

みなさんの作品や情報に支えられる欄がたくさんあります。あなたの作品やホットな情報を待ちしています。(一内は通常のページです。

①ふれあいポスト(3面)最近思ったことなどのお便り②ふるさとスケッチ(3面)③町からこんにちは(3面)④自治会のホットな話題など⑤さーくる仲間(4面)⑥各方面で活躍している市民を紹介⑦見たことがある?(8面)⑧ふだん気づかない市有施設の一部分をクローズアップ

○問い合わせは広報課 内線3522



広報紙支える市民の声

○ とじて保存してください。いつかまたお役にたちます ○



プレイベント

100周年クイズに大喜び 前橋まつりで

100周年の本番は来年度ですが、今年度に行う催しを「イベント(事前行事)」と呼んでいます。イベントを通じて、市民のみなさんと100周年の気運を盛り上げようとしているものです。

既に、NHKにここぶんショー、国立ボリショイサーカス、NHK悠々フェア、七夕まつり、花火大会、アメリカ大恐竜展、前橋まつりなど、多くのイベントを団体と協賛して実施してきました。

中でも、国立ボリショイサーカスは4000人の市民無料招待。募集に9.5倍の応募があり、非常に大きな反響を呼びました。世界一流の演技に、客席からは盛んな拍手が沸きました。アメリカ大恐竜展では、市内の小学生を無料で招待。親子のマイアサウラの動体模型に子供たちの人気が集まりました。また、前橋まつりでも「子供の広場」で実施したソルブレイン・ジェットマンのキャラクターショーやミニSLの試乗コーナーは大人気。大勢の子供たちでぎわいました。

こうしたイベントの盛り上がりを、来年の市制施行100周年への大きなステップとしていきたいと考えています。

100周年推進室☎内線3515



目三五
会開口さん方(西片貝町三丁目)
料二千円。申込みは11月26日
止までに市バスケットボール協
会・開口さん方(西片貝町三丁目)
内線3515

☆小学生バスケットボール
12月15日・22日(日)、午前9時、
市民体育館。市内小学校の児童
で編成したチーム。監督・コ
ーチ各一人、選手十人、十五人の
男女別一校二チーム以上出場
可(十二人以上登録、審判ので
きる人を一人)。種別は男子A・
B、女子A・B(6年生を含む)。
同C(4年・5年生のチーム)。
参加費一チーム三千円(初日納
入、未登録チームほかに登録
料二千円)。申込みは11月26日
止までに市バスケットボール協
会・開口さん方(西片貝町三丁目)
内線3515

お年寄りの慰労にと菊見会



箕井町公民館の
大広間で四日(敬
老菊見会)が開催
されました。この
催しは、これまで家族や町
のため尽力してきたお年
寄りを慰労しようと同町
自治会が主催。十五年も続
いていた行いです。こ
の日、招待された七十歳以
上のお年寄り百十四人のう
ち、八十一人が出席。立派に
咲いた大輪菊や懸崖づくりの
菊に囲まれ、懐かしい昔談
議にも花が咲きました。
また同町長寿会の大正琴愛
好会も白い扇子を披露。
哀愁漂う大正琴独特的音色に
聞き入るなど、楽しい一日を
過ごしました。

「町の伝統行事になりま
した。これからも続けたいです
ね」と、自治会長の永井利雄
さん(68)は話していました。

市役所は、〒371 前橋市大手町二丁目12-1 ☎24-1111です。



市民スポーツ祭

内線4033へ。

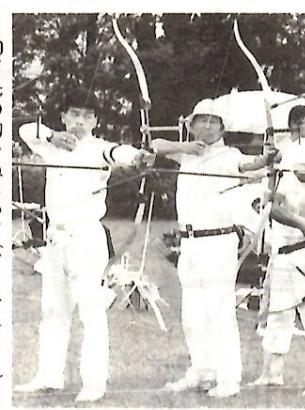
健康マラソンの日程
12月1日に変更
変更 10月15日号6面掲載「市民
スポーツ祭健康マラソン」の
開催日11月24日(日)は、12月1日
(日)に変更になりました。

○問い合わせは保健体育課☎内
線4033へ。

真剣に美しく

市民スポーツ祭
カメララボ

スポーツの秋。今年も市内の体育馆や
グラウンドなどで、市民スポーツ祭が開催さ
れました。競技に打ち込む選手たちの「真剣
で美しい姿」を写真で紹介します。



►中学生の華麗な演技も(新体操)

スポーツの秋です

(43)5762:夜へ。問い合わせ
は市民体育馆内の体育振興公社
☎5900へ。

(45)0900へ。

□合氣道
12月20日(水)~12月25日(水)の水
土曜午回、水曜午後6時
~8時、土曜午後3時~5時、
日曜午前9時~11時、市民体
育館。小学生以上。申し込みは教
室の開催日時に会場へ直接随
時問い合わせは市民体育馆内
の体育振興公社☎5900へ。

□小学生スキー
来年1月5日・19日(日)、尾瀬
品高原スキー場(利根郡品高
村)。二日とも午前6時市役所前
集合。小4~小6で二日とも
百二十人(抽選)参加費九千円。
申し込みは11月30日(土)までに往
復ハガキで。住所・氏名・保護
者名・学校・学年・電話番号を
明記して市役所保健体育課「小
学生スキー教室」係へ。問い合わせ
は同課☎内線4033へ。参加決定
者は後日、開講式・説明会の連絡をす
ます。

□小学生バスケットボール
12月15日・22日(日)、午前9時、
市民体育館。市内小学校の児童
で編成したチーム。監督・コ
ーチ各一人、選手十人、十五人の
男女別一校二チーム以上出場
可(十二人以上登録、審判ので
きる人を一人)。種別は男子A・
B、女子A・B(6年生を含む)。
同C(4年・5年生のチーム)。
参加費一チーム三千円(初日納
入、未登録チームほかに登録
料二千円)。申込みは11月26日
止までに市バスケットボール協
会・開口さん方(西片貝町三丁目)
内線3515

まなうにしている彼を車に乗
せ、交通センターに着きました。
すると、ここではなく、自動車
の試験場に行きたいのだと分
りました。彼は、自分の説明不
足を謝りましたが、私は気にす
ることないよと励ました。試験場
に向かいました。

ようやく試験場に着き、帰ろ
うとする私に、彼はお礼だと言
って私のポケットにお札を押
込みました。私は困惑しました
が、彼は手を振って雨の中に消
えました。お昼ごろ、自宅前で一
波で、朝から強い雨が降っていました。
その日は、台風二十一号の余
波で、朝から強い雨が降っていました。
まつた。お昼ごろ、自宅前で一
人の青年に道を聞かれました。
彼は「ブラジルの日系二世とい
う、交通センターまでの道順を
尋ねているようでした。彼は地
理に不案内のよ
うでした。私が
が教えると雨の
中を歩いていき
も分からず、ど
しゃ降りの雨の
中を歩いていく
え、車で彼の後
を追いかけま
した。彼と別れた後、
外国から来て道
へを歩いていき
ました。彼は、車で彼の後
を追いかけました。

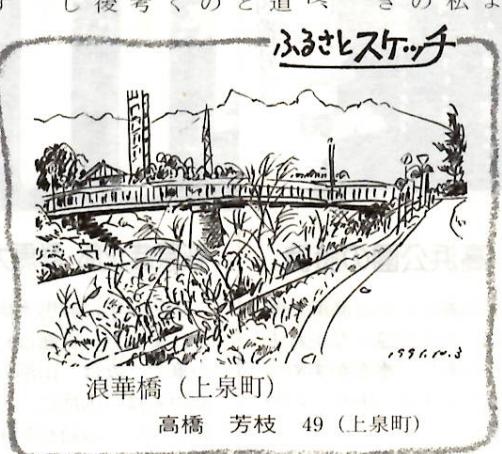
私は、おせつかいが過ぎたか
なと思うと同時に、人に親切に
することは難しく、勇気がい
るものだと思いました。

小相木町一丁目
倉持 正次

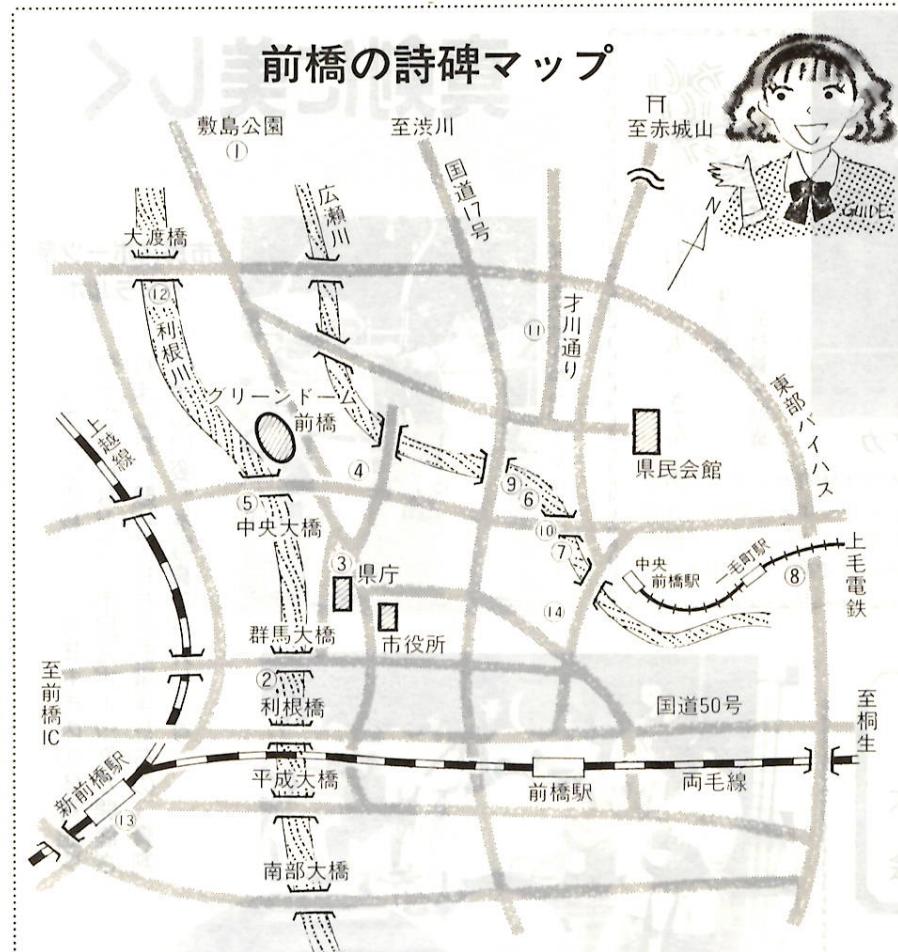
79

ふみさしき

くわせ



橋川を再発見



① 葉太郎「帰郷」詩碑 (敷島公園・ばら園東) ② 恭次郎詩碑 (群馬大橋西際) ③ 元吉詩碑 (県庁裏・高浜公園) ④ 晩村詩碑 (前橋公園・臨江閣南) ⑤ 蓦鳥詩碑 (中央大橋西際) ⑥ 信吉詩碑 (広瀬川河畔廻橋下流) ⑦ 七男詩碑 (同久留万橋上流) ⑧ 前橋こども公園文学の小道 (湖太郎、恭次郎、晩村、元吉、暮鳥らの詩碑や歌碑など) ⑨ 葉太郎「広瀬川」詩碑 (広瀬川河畔廻橋下流) ⑩ 葉太郎「月夜」詩碑 (同諷橋東際) ⑪ 葉太郎「才川町」詩碑 (若宮町三丁目・才川公園) ⑫ 葉太郎・大渡橋の碑 (大渡橋上) ⑬ 葉太郎「新前橋駅」詩碑 (新前橋駅前広場) ⑭ 葉太郎・前橋望景の碑 (千代田町五丁目銀座通り端)



高橋元吉

明治26年～昭和40年

前橋中を卒業。大正初期、武者小路実篤、柳宗悦、千家元麿、長与善郎ら「白樺派」の文学者との交友を深めました。地元で

本潤らと出会い、大正十二年に雑誌『赤と黒』を創刊。その後、社会主義的な傾向を強め、十四年に詩集『死刑宣告』を出版しました。絶えず前衛芸術運動の先頭に立って、近代詩を変えていくことを模索。詩集『断片』(昭和六年)の外、没後、秋原恭次郎詩集が刊行されています。



萩原恭次郎

明治32年～昭和13年

生まれば日輪寺町の農家。前

ふるさとの詩人たち

れ育った背景には、本市の自然や風土が大きく影響していると専門家は分析しています。美しい利根川や広瀬川の流れ、緑濃い敷島公園や前橋公園など、詩情を呼ぶにふさわしい趣深い場所が市内各所にあり、詩人たちの創作意欲をかき立てた土壌があつたからです。朔太郎の最

高傑作の一つといわれる「純情小曲集(大正十四年刊)所収の「郷土望景詩」には、こうした前橋の風景を題材にした珠玉の詩が数多くあります。

多くの詩人たちを生み、多くの詩人たちを迎えていた都市は、全国を見渡しても類がありません。本市が「詩のまち」と呼ばれるのは、このような由来があったからなのです。

は	詩	碑	で	い	つ	ぱ	い	地図番号⑨
	地図番号④		地図番号③		地図番号②		地図番号①	
平井晩村・前橋公園の詩碑		高橋元吉・高浜公園の詩碑		萩原恭次郎・群馬大橋西際の詩碑		萩原朔太郎・「広瀬川」詩碑		
昭和31年に前橋公園に建立。「落ち葉搔くまで大人びし/いたいけな子に母はなく/父は庄屋に米搗きに/留守は隣へことづけて/連もなければ貞ひとり/裏の林で日を暮らす」の詩が刻まれています。		昭和41年に県庁の裏手にある高浜公園に建立されました。「ああ空遠くながれ去る/河のごときものあり/水をかすめつつ飛びゆく/鳥のごときものあり」の詩が刻まれています。		昭和34年に群馬大橋の西側緑道に建立されました。文面は詩友である高橋元吉の筆で「汝は山河と共に生くべし/汝の名は山岳に刻むべし/流水に描くべし」の詩が刻まれています。		昭和45年に建立。「廣瀬川白く流れたり/時さればみな幻想は消えゆかん。/われの生涯を釣らんとして/過去の日頃邊に糸をたれしが/ああかの幸福は遠きにすぎざり/ちひさき魚は眼にもとまらず。」		

楽しい一日

詩碑巡り

3日の文化の日に市観光協会が「詩碑巡り」を行いました。県内各地から25人が参加。本市にゆかりのある詩人たちの足跡をしのびました。移動には県内でも1台しかないポンネットバスを利用。午前10時に前橋駅南口を出発して、恭次郎の詩碑や朔太郎の墓地、ばら園などを訪ね、また、広瀬川河畔の詩碑探訪なども行いました。好天にも恵まれ、文化の薫り高い秋の一日を、参加者みんなが大いに楽しんだようです。



ポンネットバスに乗り前橋駅の南口を出発。詩碑巡りの始まりです。

さあ出発、詩碑巡り



群馬大橋西際の恭次郎の詩碑を見学。こんな身近な所に詩碑を発見。

こんな所にも詩碑が



ばら園内にある朔太郎記念館に到着。この家で名作が作られたのです。

朔太郎記念館を見学



廣瀬川河畔のボエトリーからは詩の朗読など聞こえ、雰囲気満点。

雰囲気満点の朗読も



焼きまんじゅうの差し入れもあって、「前橋名物」に舌鼓を打ちました。

おやつにみんな舌鼓

詩のまち前

平井 晚村

明治17年～大正8年
(一八八四～一九一九)

前橋中を中退後に上京し、前橋時代に、小説「明治三才」を卒業。新早稲田大学高等師範部を卒業。



平井 晚村

書いて文筆生活に入りました。少年小説や歴史小説として活躍するばかりでなく、民謡詩人として廣く知られ、「麦笛」などの詩集も発刊。我が國の民謡詩人の草分け的な存在です。



詩人たちが活躍した時代に思いをはせていました 朔太郎「月夜」詩碑前で

文学散歩へどうぞ

山村 蓦鳥

明治17年～大正13年
(一八八四～一九二四)

群馬郡群馬町の生まれ。郷里の堤ヶ岡尋常小学校の代用教員時代に、前橋マッチャ教芸の英語夜学校に通つて洗礼を受けました。その後、伝道師として布



山村 蓦鳥

時代に、前橋マッチャ教芸の英語夜学校に通つて洗礼を受けました。その後、伝道師として布



伊藤 信吉

吉賞など受賞し、群馬ベンクラブ会長、県文学芸術会長などを務めました。

みなさんも参加

催しも多彩に

生犀星全集の編集にも当たるなど、多くの編著・研究論考も世に送り出しました。芸術選奨文部大臣賞はじめとして、数多くの受賞があり、現在も第一線で活躍中。

図書館が行っている事業では、前橋の詩人たちへの理解を深めてもらえるような行事がたくさんあります。その主なものをお紹介します。

声

VOICE



関俊治さん(71)
日吉町三丁目・
県文学会議会長

詩人の生活した周辺も散策して



荻野美幸さん(27)
太田市在住・
会社員

暮鳥の詩に感動前橋つてすてき

まち

地図番号(5)



山村暮鳥・中央大橋西際の詩碑

昭和50年に中央大橋西側の緑道に建立されました。「ふるさと」と題された詩「さうとして／天の川がながれてゐる／すつかり秋だ／とほく／とほく／豆粒のやうなふるさとだのう」と刻まれています。

